

中国委員会

委員長 勝俣 宣夫
(丸紅 取締役社長)

未来志向の日中関係構築へ 中国側の熱意を実感



勝俣 宣夫

かつまた・のぶお

1942年東京都生まれ。66年慶応義塾大学経済学部卒業後、丸紅飯田入社（72年丸紅に改称）。印刷用紙部長、紙パルプ本部長を経て、96年取締役、99年代表取締役常務取締役、2001年代表取締役専務取締役、2003年より代表取締役社長。2003年1月フィンランドよりライオン勳章受勲。

2003年経済同友会入会、2005年度より幹事。2004年度郵政公社民営化委員会副委員長、2005-2006年度中国委員会委員長。

生活水準の底上げで 格差是正を目指す中国

今回のミッションの1週間前に安倍首相が初の外遊先として中国を訪れ、トップレベルで戦略的互恵関係を構築していこうという方針が確認されました。このことは、以前から我々が両国首脳との交流再開が急務であると提言してきた経緯もあり（*）、大変喜ばしいことでした。訪問した先々でも、中国側と、日本大使館や中国日本商会といった日本側、その双方から歓迎の声が寄せられました。

今、中国では第11次五カ年計画で掲げられている「調和の取れた社会」と「質の高い経済」を目指し、新たな発展が始まっています。最初の訪問地、北京では、中国が抱える様々な問題を踏まえつつ、日中経済交流強化の方策について中央レベル関係者と積極的な意見交換を行いました。なかでも、格

差が拡大している問題は、中国政府も真剣に考えていると感じました。中国側としては、経済全体の成長の中で、遅れた地域、部門、人々の生活水準を底上げすることで格差を是正しようとしています。一方で、特権的地位等を利用してではなく、実力のある人が高収入を得るのであれば問題ないと考えていることも分かりました。

中国経済の発展を担う 注目の環渤海経済圏を視察

後半の地方視察では、珠江デルタ経済圏、長江デルタ経済圏に続く第3の経済圏、環渤海経済圏の曹妃甸（唐山市）と滨海新区（天津市）を訪問しました。内に北京、天津、河北省という巨大な消費地を控え、外は日本や韓国との距離も近いことから、いずれも発展のポテンシャルの高さを感じます。しかしその性格は異なり、曹妃甸は、製鉄業、化学工業等の先進技

中国委員会

概要

日中経済協力推進に向けた具体策等、重要課題に関する調査・研究、ミッションの派遣等の交流活動の推進を行っている。

副委員長（メンバー72名）

- ・ 門野 史明
（三菱UFJリサーチ&コンサルティング 取締役専務執行役員）
- ・ 斎藤 忠勝
（資生堂 執行役員専務中国総代表）
- ・ 関澤 秀哲
（新日本製鐵 取締役副社長）
- ・ 野口 章二
（飯野海運 取締役会長）
- ・ 古川 令治
（アセット・マネジャーズ 取締役（取締役会議長））
- ・ 松尾 雅彦
（カルビー 取締役相談役）

（役職は12月22日現在）
（インタビューは12月12日に実施）

術を持つヘビーインダストリーを中心に、発展はこれからといった印象を持ちました。一方、1994年から開発が進む濱海新区は、ハイテク産業や物流基地などを中心に、将来的には上海の金融センターのような存在を目指しているのだと思います。

また、世界的にエネルギー需給の厳しい状況が続くなか、中国のエネルギー効率の向上は重要な課題です。我々がかねてより、中国との環境ビジネスの重要性を訴えてきましたが、中国側もこの問題を深く認識していました。日本は優れた省エネ技術を持っていますから、中国に技術供与を行っていくことが、両国の新しいWIN-WINの関係を実現するうえで象徴的な事例になると考えています。

最後になりますが、今回、中国経済の発展の速さ、拡大の大きさを改めて実感できました。変化のスピードが速まるなか、定期的に訪中を行う本ミッションの重要性を強く再認識した次第です。

*2006年度訪中ミッションの報告書は13～14ページに掲載。

*……中国委員会（2005年度）が2006年5月に発表した提言「今後の日中関係への提言―日中両国政府へのメッセージ―」